

宮城県色麻町  
持続可能な未来をつくる、色麻のいま。

2023.04.01

Vol.

12

April, 2023

第 12 号  
年度始特大号

# しかま支え合い 情報誌



特集

## 受け継がれる地域づくり

# 先輩たちからのバトン 見守り見守られて 安心して続けていける

In  
一の関

ICHINOSEKI



体操の先導をする介サポの佐藤典子さん。

「とにかく体を動かすことが好きな人が多い地区なんです」と明るい声で話すのは一の関地区民生委員の佐藤栄子さん。地区の活き生き長生き教室の内容は、民生委員さんや介護予防生活支援サポーターの方々等で考えています。毎回やることを考えるのはたいへんじゃないですかと聞いてみると、栄子さんは「たいへんだと思うことはないですよ。参加者の皆さんに楽しみにしてもらって

## 体を使った 運動ゲームが好き

「とにかく体を動かすことが好きな人が多い地区なんです」と明るい声で話すのは一の関地区民生委員の佐藤栄子さん。地区の活き生き長生き教室の内容は、民生委員さんや介護予防生活支援サポーターの方々等で考えています。毎回やることを考えるのはたいへんじゃないですかと聞いてみると、栄子さんは「たいへんだと思うことはないですよ。参加者の皆さんに楽しみにしてもらって

「こういう行事は、日々の張り合いになってますよ」と話すのは、介サポの佐藤典子さん。コロナ禍以降はより楽しみになったと言います。「コロナ禍が来てからは、町の行事が次々と中止になって、今はこのいきいきが、貴重な集まる機会になっていますので、待ち遠しいです」と、活き生き長生き教室の存在を大切にしているのが伝わってきます。

運営の皆さんで、手分けして参加者の方々の送迎もしています。そのような取り組みからも、場づくりへの想いが伝わってきます、参加者の皆さんにも想いが伝わって、この盛り上がりを生んでいるのだと感じました。「いつもはもっと盛り上がるんですよ。今日は取材が来たから、みんな大人しいですね」と栄子さん。



↑手製のくじでチーム分けをする佐藤栄子さん。

↓おみやげも手作りのおいなりさん。



## 参加者は地域づくりの先輩 見守られて続けられている

「参加者として来て  
いる方たちは、もとも  
は地域の先輩たち。皆さ  
んがつないできたもの  
を、私たちがちゃんと受  
け継いでいるかどうか、  
見守ってもらえている  
から、続けていくことに  
やりがいを感じられる  
んだと思います」と栄子  
さんは話します。地域の  
バトンが受け継がれて  
いくシーンを目の当た  
りにしているような感  
覚になりました。

「とはいえ、終わった  
後の会食が楽しみなん  
ですよ(笑)」と話すのは  
寿枝さん。「月に一回の  
情報交換の場ですから  
ね！話したいことがた  
くさんあるんです(笑)」  
とウキウキした様子。教  
室の後は、運営の皆さん  
で会食に行くのが恒例  
だそうです。話したいこ  
とを話したい仲間と思  
う存分話せるのは、長続  
きの秘訣の一つなので  
しょうね。



大人気の風船パレー。ラリーは200回を越えました。



恒例の音読で、発声練習。



ゲームに勝つと、みんなで祝福。

毎回読むものを準備します。

## Information

【生活支援コーディネーターからのお知らせ】

### 皆さんの活動・地域の活動情報をお寄せください！ 生活支援コーディネーターの菅原が伺います(^-^)/

こんにちは！色麻町生活支援コーディネーターの菅原一杉です！  
皆さんの地区で地域のために活動されている方や地区での活動、お茶飲み会や各種ものづくり等の情報がございましたら、下記の連絡先までご連絡ください。

生活支援コーディネーターの菅原が取材にお伺いし、支え合い情報誌にてご紹介させていただきます。支え合い情報誌は、町内全戸配布の他、町外・県外の施設にも配布されます。

皆さんの地区の活動が、町内外の地域を活性化するヒントとなり、よりよい社会づくりに貢献していきたいと思っています。ご協力よろしくお願いたします！



色麻町社会福祉協議会  
色麻町生活支援コーディネーター

すが わら かず すぎ  
菅 原 一 杉

#### 【連絡先】

TEL:0229-65-2260 FAX:0229-66-1713

E-mail:shikama.shakyo@vesta.ocn.ne.jp

# 活き生き長生き教室で舞踊披露



令和五年二月九日(木)、花川沢口地区の活き生き長生き教室が行われました。そこへ藤枝会の方々をお招きし、地区の皆さんで日本舞踊を鑑賞しました。会場には約二十名の住民の皆さんが来場されました。

藤枝会の皆さんは、令和二年から始まったコロナ禍によって、町の行事が次々と中止になり、舞踊を披露する場が無くなってしまいました。自主開催しようにも、制限が厳しかった時期には、公共施設が使用できないこともあり、苦しい思いをされたそうです。藤枝会代表の島田さんは、「長い間発表する場がなく、気持ちを維持するのがたいへんでした。今日こうして、稽古の成果をお見せできる場をいただきまして、天にも昇る気持ちです。心より感謝を申し上げます」と話し、いつもなら「舞台三曲のところ、この日は特別に、六曲披露されていました」。

最後に、区長さんよりお礼の花束を手渡された島田さんは、感激のあまり、涙されていました。

会場には、歌を口ずさむ方や、一緒に手を動かす方、中にはご自身の思い出を重ねて涙ぐむ方もいらっしゃいました。「踊り観たから、もっと長生きできるな!」と話す方もいて、皆さんとても満足してお帰りになっていました。



# 地区住民にえごま油を配布



令和五年二月二十六日(日)、志津多目的集会施設において、志津地区の総会が行われました。その際、出席者全員にえごま油が配られました。世帯数分のえごま油を地区で購入し、配布したそうです。

えごま油は色麻町が誇る特産品の一つですが、近年では、安価で大量に輸入される外国産のものに押され、国産のえごま油の売れ行きが落ちていそう、色麻産のものも例外ではありません。

「もともと、町で採れたものを、なぜ町の人で消費しないのかという思いがあった」と語るのは、志津地区の佐藤一区長。今回の一括購入は、色麻産えごま油の苦境を救うためだけではないとのこと。確かに、えごま油のピンチを救いたいという思いもある。しかし、一番は、地元の良いものは地元の住民に届けたいから。町のPRとして、都会の人たちに広報するのでもいいが、もっと住民にえごま油の良さを体感してほしい。何より体にいいのだから」と話します。

えごまは別名「じゅうねん」というそうです。食べると十年長生きするということからその名が付いたそうです。住民の皆さんの健康寿命が伸びるといいですね。

→ 令和四年十月二十八日付の読売新聞でも取り上げられました。

いぬわりの仙台だより

第222回

### 新年色麻のえごまで

色麻町のえごま油は、全国的にも有名な特産品です。しかし、近年では、安価で大量に輸入される外国産のものに押され、国産のえごま油の売れ行きが落ちていそう、色麻産のものも例外ではありません。

「もともと、町で採れたものを、なぜ町の人で消費しないのかという思いがあった」と語るのは、志津地区の佐藤一区長。今回の一括購入は、色麻産えごま油の苦境を救うためだけではないとのこと。確かに、えごま油のピンチを救いたいという思いもある。しかし、一番は、地元の良いものは地元の住民に届けたいから。町のPRとして、都会の人たちに広報するのでもいいが、もっと住民にえごま油の良さを体感してほしい。何より体にいいのだから」と話します。

えごまは別名「じゅうねん」というそうです。食べると十年長生きするということからその名が付いたそうです。住民の皆さんの健康寿命が伸びるといいですね。

# 高校生お弁当コンテスト優秀賞



令和四年度「高校生地産地消お弁当コンテスト」にて、加美農高が優秀賞を受賞しました。お弁当のタイトルは「みやぎumami感じる香し弁当」。地元の食材を活かした内容になっており、このレシピは「ふれいあいは」と訪問「お弁当にも採用させていただきました。レシピを考えたのは、三浦月姫さん（左写真右・加美町）・宮崎菜音さん（左写真中央・上黒沢）・小松巧実さん（左写真左・鷹巣）の三名。メンバーの宮崎さんは、「イチオシはお米です。今はお米の消費が減っているそうなので、このお弁当を機会に、お米の美味しさをPRしたいです」と話していました。

このお弁当は、二月十五日から二月二十八日まで、イオンやミニストップ等のイオングループの店舗にて販売されました。今回の受賞のおかげで、マスコミ各社からたくさん取材を受けたとのこと、慣れた様子でしたが、「でも、緊張はしますよ(笑)」と三浦さん。

メンバーの三人は、三月一日に卒業式を迎えました。家庭クラブ顧問の高田亜希子先生は、「この子たちががんばったおかげで、加美農をたくさんPRできたいと思います。本当に感謝しています」と話していました。

卒業後も、皆さんのご活躍をお祈りしています。



# 吉田地区ひなまつり



令和五年三月三日(金)、吉田地区にてひなまつりが行われました。立派なひな壇に飾られたひな人形やひな飾りは全て手作り。職人顔負けの作品が絢爛豪華に並んでいました。

当日は、大道派色麻教室の皆さんをお招きし、「うれしいひなまつり」や「さくらさくら」など、桃の節句にちなんだ曲を演奏していただきました。聴きなじみのある曲とあつて、皆さん演奏と一緒に口ずさんでいました。アンコールもあり、最後は、東日本大震災を偲び、「花は咲く」を披露していただき、会場の皆さんも演奏に合わせて唄いました。

当日は、吉田地区以外の方々も来場し、皆さん、圧巻のひな壇を堪能した後、琴の演奏に聴き入っていました。時折、雪のちらつく肌寒い日でしたが、春の足音を感じるあたたかい行事になりました。

# 色麻のコミュニティ紹介

## かっぱクラブしかま賛助会員大募集！

色麻町老人クラブ連合会は、令和4年に設立60周年を迎え、新愛称が「かっぱクラブしかま」となりました。

かっぱクラブしかまでは、「入会したいけれど自分の地区に単位クラブがない」との声にお応えして、旧色麻学区と旧清水学区の賛助会員として、かっぱクラブしかまに入会できるようにいたしました。賛助会員になると、スポーツ大会や教養講座など、かっぱクラブしかま主催の行事に参加することができます。入会方法は、社協窓口に設置している入会希望届に必要事項を記入し、社協窓口に提出していただくだけです。160人の仲間が待っています！共に元気に楽しく生きましょう！

【お問い合わせ】65-2260 菅原



## ふれあいは一と訪問事業 協力員募集！

【ふれあいは一と訪問事業とは】

人とふれあう機会が減少したことによる、健康や精神面への悪い影響を緩和することを目的として、75歳以上の一人暮らしの方を訪問し、お話ししたりお弁当を配達したりする活動です。

【募集定員】8名

【実施期間】令和5年5～12月、令和6年3月

【活動時間】10:00～15:00

【費用弁償】5,000円/月

【同意書】個人情報扱うこととなりますので、守秘義務を遵守する旨の同意書に署名・捺印していただきます。

【保険】ボランティア保険に入っております。保険料は社協が負担いたします。

※その他、詳細はお問い合わせください。

お問い合わせは、色麻社協までお電話(65-2260)又は下記QRコードよりメールでお寄せください。



お問い合わせ用QRコード



## しかま支え合い情報誌 vol.12

発行：社会福祉法人色麻町社会福祉協議会

〒981-4122 宮城県加美郡色麻町四竈字杉成 27-2

TEL：0229-65-2260 FAX：0229-66-1713

E-mail：shikama.shakyo@vesta.ocn.ne.jp

URL：http://www.shakyo.or.jp/hp/287/

生活支援体制整備事業は、介護保険制度の地域支援事業の一つです。  
しかま支え合い情報誌は、色麻町生活支援体制整備事業の一環として発行しています。